

23
令和6年3月

岩手大学教職大学院 岩手大学 IWATE UNIVERSITY

NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます！
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

- 及川総司・鈴木久米男・川上圭一(2023)高等学校における学校規模に応じた組織力向上の在り方:小規模校での内的・外的資源を生かした組織的取組の手立て
 - 佐々木啓太・宮川洋一(2023)デジタル・シンティズンシップの視点を取り入れた「情報モラル教育」の実践とその効果
- 他14編掲載、教育学研究科研究年報 第7巻



問合先:岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail eduji@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

教育実践研究発表会

教育実践研究・中間発表会

教職大学院を修了して

教育学研究科教員メッセージ

M2 関 要
[学卒院生、授業力開発プログラム]

大学院生活の集大成としてこの日の発表に臨みました。どのようにして生徒に良い学びを提供し、研究の成果を挙げるのか。これらのことを2年間を通じて常に試行錯誤し、自身の研究と向き合い高め続け、外部へと発信してきました。この経験は、これから教員として何十年と過ごしていく中での自分自身の軸となり、強みとなっているのだと確信しています。

M1 山根 基義
[現職院生、特別支援教育力開発プログラム]

「特別支援学校分教室における交流及び共同学習の実施手順及び要領」を明らかにすることを目的に、研究を進めています。毎週行われるゼミは、学校現場では経験することのできない貴重な学びとなっています。中間発表会では、自分の研究と来年度に向けての研究デザインについて多くの助言をいただきました。また、院生同士でも互いの研究についてより深く学び合うことができる機会となりました。



M2 高橋 真弓
[現職院生、学校マネジメント力開発プログラム]

教職大学院では、様々な講義・専門実習・実践研究等を通して、教育の「今」を軸に、背景や今後の課題等について学びを深めたり、現職・学卒の仲間と共にじっくり考えたりすることができました。充実した2年間を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。ここで学びを活かし、今後も教育実践に力を尽くしていきます。

M2 小林 美奈子
[学卒院生、特別支援教育力開発プログラム]

教職大学院の2年間を通して、教育的意図をもちながら実践し、それについて学んだ知識と照らし合わせながら省察、改善する力を身に付けることができました。これには、専門実習の中での実践と省察により得た学びや院生同士の協議による学びが活かされています。今後は、身に付けた力を学校現場の子どもたちへの教育に活かして参ります。

M2 渡邊 圭美
[現職院生、授業力開発プログラム]

2年間の実践研究の成果を報告する機会を与えていただきました。今年度は土曜日開催、さらにオンラインでも参加可能だったため、県内の現職の先生方や全国各地の大学院の方々から貴重なご意見をいただくことができました。

今後さらに省察し、それぞれの場で実践を積み重ね、学校や子どもたちに還元できるよう学び続けます。

教職大学院の日々

教職大学院の魅力は、教授陣、現職院生、先輩方や同期の仲間と何でも話せる環境があることだと思います。授業のときに教授や院生と話し合うことだけでなく、院生室でのコミュニケーションも大切にしています。研究や授業実践についてアドバイスをもらえること、目指すべき姿が近くにあることは励みになり、研究や実践への意欲が掻き立てられます。

M1 宮野 一歌
[学卒院生、授業力開発プログラム]

教室のぬくもり

実務家教員 中村宗宏

子どもたちの姿がない教室には一種のぬくもりが漂っている。さきまで子どもたちがそこにいたからという時間だけの問題でもない。おそらく長い年月のあとに訪れたとしても、そこにはやはり一種のぬくもりが残っているのだろう。

わたしが現職のときは子どもたちが帰った後の教室へよく出かけたものである。特に目的があるわけではないが、だれもいない教室がなんとなく好きなのだ。日が西に傾き、教卓の花の影が長々と床に寝そべる教室にぼんやり立ってみる。そこに色々な子どもたちの姿が登場してくる。Aが笑っている。Bがはにかんでいる。Cがはしゃいでいる。そんなひとり思いに耽っていると、途中でハッとすることがある。どうしても一つの顔しか思い出せない子がいるからである。よそ行きの顔。教師向けの顔しか思い出せないのである。

この話のある先生にしたところ、その先生は「私は学級の子どもの笑い声を知っている」ということであつた。その笑い声を聞いていると、子どもたちの感情や性格がなんとなく分かるというのである。確かに子どもたちの笑い声の中には、文字にならないことが潜んでいるのかもしれない。子どもたちと学び、遊び、悩み語り合い、共に歩み、成長していける学校現場はよいものである。